



204号 発行所/下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 発行責任者/病院長 林 弘人 印刷/(株)アートネクスト

「42.195 kmなんて絶対に走れるわけがない」
1年前のマラソンを走るまで、心の底からそう思っていました。勿論そんな自分が完走できる道理はなく、28 km地点にて回収車に保護されるという結果でした。しかし、マラソンをもう一度走りたいと思わせてくれた感情は、医師ランナーとして関わったあるランナーを対応した際に芽生えたものでした。

その人とはちようど25 km地点のあたりで出会いました。泣きながら中央分離帯に座り込んでおり、足が何度もつる上に頭も若干朦朧としているようでした。診察をした時点で救急車を呼ぶ程度ではなかったものの、走るのには困難と判断し回収してもらおうよう伝えました。しかしそんな状態にもかかわらず、しきりに立ち上がり走り出そうとされるのです。なぜここまで本能的に走ろうとするのか、その時はよく理解できませんでした。

ようやく落ち着いた時に本人から理由を教えてください



「42.195 kmなんて絶対に走れるわけがない」
1年前のマラソンを走るまで、心の底からそう思っていました。勿論そんな自分が完走できる道理はなく、28 km地点にて回収車に保護されるという結果でした。しかし、マラソンをもう一度走りたいと思わせてくれた感情は、医師ランナーとして関わったあるランナーを対応した際に芽生えたものでした。

その人とはちようど25 km地点のあたりで出会いました。泣きながら中央分離帯に座り込んでおり、足が何度もつる上に頭も若干朦朧としているようでした。診察をした時点で救急車を呼ぶ程度ではなかったものの、走るのには困難と判断し回収してもらおうよう伝えました。しかしそんな状態にもかかわらず、しきりに立ち上がり走り出そうとされるのです。なぜここまで本能的に走ろうとするのか、その時はよく理解できませんでした。

ようやく落ち着いた時に本人から理由を教えてください



「42.195 kmなんて絶対に走れるわけがない」
1年前のマラソンを走るまで、心の底からそう思っていました。勿論そんな自分が完走できる道理はなく、28 km地点にて回収車に保護されるという結果でした。しかし、マラソンをもう一度走りたいと思わせてくれた感情は、医師ランナーとして関わったあるランナーを対応した際に芽生えたものでした。

その人とはちようど25 km地点のあたりで出会いました。泣きながら中央分離帯に座り込んでおり、足が何度もつる上に頭も若干朦朧としているようでした。診察をした時点で救急車を呼ぶ程度ではなかったものの、走るのには困難と判断し回収してもらおうよう伝えました。しかしそんな状態にもかかわらず、しきりに立ち上がり走り出そうとされるのです。なぜここまで本能的に走ろうとするのか、その時はよく理解できませんでした。

ようやく落ち着いた時に本人から理由を教えてください



臨床研修医2年目 黒木 大世

下関海響マラソン2019に参加して

日曜日の朝は「サンデー健康応援講座」(予定)
毎月第4日曜日10:00~11:00 関門医療センター3Fホール

1月26日(日)「生活習慣病について」
管理栄養士 東久保 良美
どなたでもご自由に参加できます

地域医療者のための学習会「関門フォーラム」(予定)
18:30~19:30 関門医療センター3Fホール

1月16日(木)「癌取扱規約勉強会」
病理診断科 村上研修部長
興味のある方はどなたでも参加できます。(事前申込必要)



「42.195 kmなんて絶対に走れるわけがない」
1年前のマラソンを走るまで、心の底からそう思っていました。勿論そんな自分が完走できる道理はなく、28 km地点にて回収車に保護されるという結果でした。しかし、マラソンをもう一度走りたいと思わせてくれた感情は、医師ランナーとして関わったあるランナーを対応した際に芽生えたものでした。

その人とはちようど25 km地点のあたりで出会いました。泣きながら中央分離帯に座り込んでおり、足が何度もつる上に頭も若干朦朧としているようでした。診察をした時点で救急車を呼ぶ程度ではなかったものの、走るのには困難と判断し回収してもらおうよう伝えました。しかしそんな状態にもかかわらず、しきりに立ち上がり走り出そうとされるのです。なぜここまで本能的に走ろうとするのか、その時はよく理解できませんでした。

ようやく落ち着いた時に本人から理由を教えてください

応援を力に変えて



訪問看護ステーション 看護師 林 美奈子

医師ランナーの役割とは
下関海響マラソンにはランナーの健康を守る医師が走っています。当センターは毎年20名以上の医師を派遣しています。

現場での十分な治療が目的ではなく、ランナーの体調をみて続行、中止の助言をし、重症度に応じて救護者、救急車、AEDの要請をしています。

私は、2012年からずっと海響マラソンに挑戦しています。関門医療センターのTシャツを着ると、「父がお世話になってますよ」との応援の声、病院前の病院職員も含めた大応援団、そして訪問看護を利用していただいている利用者さん、そのご家族の方からの声援、皆様の声援から力をいただき、今年も完走することができました。私は、その多くの応援が嬉しくて、海響マラソンに出続けることができているのだと思います。ありがとうございます。また、来年も応援よろしくお願いします。

「42.195 kmなんて絶対に走れるわけがない」
1年前のマラソンを走るまで、心の底からそう思っていました。勿論そんな自分が完走できる道理はなく、28 km地点にて回収車に保護されるという結果でした。しかし、マラソンをもう一度走りたいと思わせてくれた感情は、医師ランナーとして関わったあるランナーを対応した際に芽生えたものでした。

その人とはちようど25 km地点のあたりで出会いました。泣きながら中央分離帯に座り込んでおり、足が何度もつる上に頭も若干朦朧としているようでした。診察をした時点で救急車を呼ぶ程度ではなかったものの、走るのには困難と判断し回収してもらおうよう伝えました。しかしそんな状態にもかかわらず、しきりに立ち上がり走り出そうとされるのです。なぜここまで本能的に走ろうとするのか、その時はよく理解できませんでした。

ようやく落ち着いた時に本人から理由を教えてください

ピアノコンサート開催



11月28日(木)2階待合ホールにて姉妹のピアノコンサートが開催されました。後藤姉妹は後藤葵さん、後藤菜さん、2名で活動を行い、国内外での演奏はもちろん、世界中の有名なミュージシャンとも共演する等、活躍されており、実は、姉の後藤葵さんは当センター研修医の宇都翔先生の奥様でもあり、そんなご縁もありボランティアによるご厚意で、今回の演奏が実現しました。

短い時間ではありましたが、二人の連弾で息の合った演奏による繊細

且つ、迫力のある力強い音色で、通りがかりの人も思わず立ち止まってしまうほどに聴く者を酔いしれさせてくれました。最後はアンコールに心えていただき、大盛況のままに終了しましたが、演奏を聴いた皆さんの入院患者さん外来患者さん、笑顔で帰っていく姿が印象的でした。お二人が奏でる演奏には聴く人に元気や勇気を与える力を感じました。ご多忙にも関わらず、この度のコンサートを快くお引き受けしていただき、ありがとうございました。

後藤姉妹 GOTOH SHIMAI



後藤 葵 1992年 生まれ 後藤 菜 1994年 生まれ

福岡に生まれ、4歳から母のもとでピアノを始め、ウイーン、パリで研鑽を積み、姉妹のピアニストとして活躍中〜オフィシャルウェブサイトより

ボランティアイベント

令和元年11月24日(水)ボランティアスタッフによるバザーが開催されました。このバザーは、毎年楽しみにされている方が大勢おられ、花や果物、お皿、古着などたくさん物が販売されています。ご来場の皆様は目玉商品を手に入れました。買った物後には、購入品をお互いに「こんなものがあつたよ」と見せ合う姿が見られ、とても楽しませてもらった様子でした。今年もバザー開催にあたり、品物をご提供いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



今年も大盛況のボランティアバザー

〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 診療受付時間：午前8:30~11:30 午後(各診療科外来にお問い合わせください) ※土曜日・日曜日・祝祭日は休診 ※臨時休診は各外来窓口に表示

★代表 TEL(083)241-1199 FAX(083)241-1301
★地域医療連携室 TEL(083)241-1191(2561-2377) FAX(083)241-1302
(★透析センター FAX(083)241-1308) https://kanmon.hosp.go.jp/

特集 第73回国立病院総合医学学会に参加して

「多職種の実績を証明する診療記録」の発表を終えて



診療情報管理士 太田 恭司

電子カルテシステムの普及状況は、病床規模400床以上で約85%と医療機関において情報化を進められ、患者さんに直接診療を行う診療科と検査部、薬剤部、放射線部などの横断的に診療活動を支援する部門との相互の情報連携が効果的に行えるようになってきました。その中で私たち診療情報管理士は、医師の記録だけでなく診療に関わる専門職種の記録についても監査し、効率的な診療が行えるよう支援を行っています。この度国立病院総合医学シンポジウムにおいて、診療記録の監査を踏まえた二次医療圏と県内施設における当センターの診療実績ベンチマーク分析を発表しました。診療科別による上位症例数のうち在院日数が全国平均以上の症例のみに絞り込み、どの時点でもどのような診療を行っているか分析・検証を行いました。二次医療圏別・県内施設別の在院日数をみても全国平均以内には収まっており、年々在院日数が短くなっている傾向にあります。したがって、クリニカルパスの活用推進や検査の外来シフト化の徹底、迅速な後方支援による在院日数短縮と、より厳格なコスト管理が求められています。診療記録は、患者さんの個人情報だけでなく医療行為を行った証拠であり、このビッグデータをできるだけ質の高いものにし、迅速に医療現場に提供できるよう努力いたします。

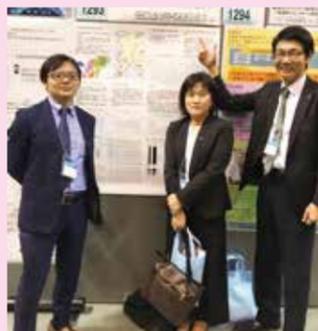
医療サービスの充実



経営企画係長 寺坂 悠

11月8日から2日間、愛知県の名古屋国際会議場で開催された第73回国立病院総合医学学会に参加しました。この学会は、医師、看護師などの医療従事者だけではなく、事務、診療情報管理士も参加する非常に多くの職種からなる学会になります。医療の充実を図るためには、経営基盤の安定は必要不可欠です。当センターでも様々な経営改善の取り組みを行っています。他の病院の取り組みを知ることができ、良い機会となります。また、当センターの取り組みに対しても様々な意見を聞くことができ、更に改善へと繋げることができそうです。

当センターの救急医療はER24時間365日無休診療を掲げていますが、



名古屋での出来事



臨床研修医 酒井 豊吾

「名古屋とはどのようなところだろうか？」という一抹の不安を抱きながら新幹線に乗りました。

この度、愛知県名古屋市で行われた第73回国立病院総合医学学会で発表

第73回国立病院総合医学学会

2019.11/8(金)〜9(土) 名古屋国際会議場



お仕事紹介 HOSPITAL WORK

診療放射線技師 池田 和弥 (平成30年度採用)

Q 具体的にどんな仕事をしていますか？

診療放射線技師「Radiologist」は医療における放射線を扱う職種です。検査や治療を行う時に必要になる放射線を、医師または歯科医師の指示を受けて人体に照射できる資格が与えられています。仕事内容としては、一般撮影検査、骨密度検査、CT検査、放射線治療などがあります。その中でも私は一般撮影検査、骨密度検査、CT検査、放射線治療を担当しています。一般撮影検査は、肺の検査をする胸部撮影や、腹部のガスや結石等を検査する腹部撮影、整形分野では骨の骨折を見たりと、ポピュラーな検査です。CT検査は、体の断面を高速で撮影し画像化する検査です。また要望に沿って血管や骨などの立体的な3D画像を作成します。MRI検査は、磁気共鳴診断装置の略であり、「磁石」



私が中学生の時、肘のレントゲンを撮ってもらったことでの仕事について

「電波」の力を使って体内を画像化する検査です。見た目はCT装置と似ていますが、放射線は使われておらず、検査時間はCT検査より長いです。また、検査や治療に携わるだけではなく、扱う装置の管理や放射線被ばく管理などの仕事も大事な業務となっています。

Q なぜこの職業を選んだのですか？

て知りました。その時に、放射線を使った検査で病気が判断できるのだと衝撃を受け放射線技師について興味を持ちました。また、幼少期から機械系も好きであったこともあり、機械を扱うことができ、画像検査を通して医療に貢献したいと思いこの仕事を選びました。

Q 今の仕事をするためにどんな資格が必要ですか？

診療放射線技師になるためには国家資格が必要です。国家試験を受ける方法は文部科学大臣が指定した学校(大学)、または都道府県知事が指定した診療放射線技師養成所(専門学校)で学んで卒業する方法です。ちなみに2019年の国家試験合格率は79.2%でした。そのほかにも学生時代に取得できる資格としては放射線取扱主任者資格があります。

Q 今の仕事をするためにどのような知識が必要ですか？

診療放射線技師になるためには国家資格が必要のため、大学に通い勉強しました。大学では、一般教養、放射線に関する物理、化学、生物、医学及び機器工学等を学びました。また大学4年生で病院実習を通して、働き出してから実践対応できるように臨床経験を積みました。実際に働いていくうちに、人体の構造や、生理的機序などの大学で学ぶ機会が少なかった分野がとて大切だと感じ、就職してからも日々の勉強に努めています。また、人と接する機会が多い職業のため、接遇・マナーには十分注意しなければならぬと思いました。

Q 仕事に就いてからのキャリア形成について

仕事面では、先輩方の指導もあり、少しずつではありますが、仕事をこなせるようになっていきました。しかし、まだ担当したことのないモダリティもあるもので、これから勉強していきたいと思っています。個人では、日々の検査に役立つ様、勉強会・学会へ積極的に参加しています。また、今年度は情報関係に興味を持ち、医療情報技師の資格を取得しました。これからは学生の頃から興味を持っているMRIの認定技師を目指して勉強を頑張っていきます。



させていただきました。国立病院総合医学学会とは国立病院機構で働かれている様々な職種の方々がそれぞれの分野の発表を行う学会です。

その中で、私は病理診断科の村上先生のご指導のもと循環器分野にて大動脈解離に関する発表を行わせていただきました。発表準備を通して、大動脈解離の臨床の側面と病理学的側面からじっくりと考察を行うことができ、また一つひとつの疾患への向き合い方も学ぶことができました。そして、発表当日を緊張して迎えましたが、それぞれのセッションで贈られる「ベストパフォーマンス」をいただきました。まさかとは思いましたが、嬉しく思います。

行きの新幹線では大きな不安を抱いていましたが、帰りの新幹線では心熱くなり、駅弁が美味でした。名古屋とはどのようなところであろうか、という疑問には、学会を通じて良い経験ができた地である、と今となっては答えられます。この場をお借りして発表にご協力してくださった方々にお礼を申し上げます。今後学会等を通じて、一人ひとりの患者さん、疾患と向き合うように精進していこうと思います。

